

「越前蟹と水仙の文学コンクール」入賞者・大賞作品

テーマ
いのり

令和6年度 越前蟹と水仙の文学コンクールにおいて、詩部門に376編、俳句部門に3,624句の作品が寄せられ、両部門の52名の受賞者が決定しました。

俳句部門（小学生の部）

大賞
織田小学校 五年 山 嶋 大 翔
「すいせんは未来のほうへむく花だ」

優秀賞

朝日小学校 一年 大 越 花 音

奨励賞

織田小学校 四年 嶋 津 莉 子

佳作

朝日小学校 二年 佐々木 七 彩
朝日小学校 四年 笠 原 彩 加
朝日小学校 六年 森 谷 莉

俳句部門（中学生の部）

大賞
織田中学校 一年 久 守 瑠 唯
「水仙は怒りをしずめる花なんだ」

優秀賞

宮崎中学校 二年 山 内 颯 大

奨励賞

宮崎中学校 三年 武 田 和 心

佳作

武生第五中学校 三年 東 隆 人
宮崎中学校 二年 坂 葵
朝日中学校 一年 宇 野 心 音

俳句部門（高校生の部）

大賞
神港橋高等学校 三年 岡 本 樹
「現代に生きる恐竜越前蟹」

優秀賞

丹生高等学校 二年 北 原 竜 将

奨励賞

武生高等学校 一年 北 村 由 輝

佳作

神港橋高等学校 三年 武 田 恵 菜
丹生高等学校 一年 羽 部 ひ より
丹生高等学校 一年 福 嶋 泰 斗

俳句部門（一般の部）

大賞
福井県鯖江市 塚 崎 広 美
「蟹漁に交じる異国語出港す」

優秀賞

栃木県宇都宮市 亀 田 勝 則

奨励賞

島根県安来市 角 森 玲 子

佳作

福井県敦賀市 大 和 田 康 夫
福岡県川崎町 千 葉 れ い か
福井県越前市 尾 崎 ひ と み

詩部門（小学生の部）

大賞
朝日小学校 二年 月 田 颯 介
「ぼくと水せん」

ぼくはさむがりだ
水せんはさむさにつよい
ぼくはさむいとせなが丸くなる
水せんはぴーんとなる
ぼくは黒いふくがすぎ
水せんはまっ白だ
でも水せんもぼくも
よくわらう

優秀賞

織田小学校 一年 坂 下 詞 音

奨励賞

朝日小学校 五年 伊 藤 悠 成

佳作

四ヶ浦小学校 二年 倉 崎 海 燈
四ヶ浦小学校 二年 須 磨 未 来
城崎小学校 三年 西 ヶ 花 碧 海

詩部門（中学生の部）

大賞
朝日中学校 二年 池 田 光 音
「冬の訪れ」

冬だ。冬だ。冬が来る。
吐いた息が白くなる
手も悴んで赤くなる
じいちゃんが植えた水仙
まだまだかわいい蕾のまま
でも、もう少し、そのまま
冬だ。冬だ。冬が来る。
冬だ。冬だ。冬が来る。
真つ白に染まって冬化粧
どの家もみんな雪化粧
じいちゃんが植えた球根が
雪を掻き分け今、咲きはこる
そして、
また来年もその花を咲かせ
冬だ。冬だ。冬が来る。

優秀賞

朝日中学校 二年 久 保 海 奈

奨励賞

三豊中学校 三年 原 瑞 葵

佳作

朝日中学校 一年 原 美 乃
朝日中学校 一年 月 田 百 香
三豊中学校 三年 佐 伯 音 々

詩部門（高校生の部）

佳作
開智中学・高等学校 四年 今 道 楊 子
福井商業高等学校 一年 廣 部 愛

詩部門（一般の部）

大賞
三重県川越町 森 久 美 子
「いのり」

海岸の大岩に
太陽が隠れるまで
赤く染まる空を
私と見ていた
空と海の境が
なくなつた深い夜
白く瞬く漁火を
私と数えた
雪の残る
張りつめた空気の朝
満開のすいせん畑を
私と歩いた
今
青白く滲んだ
水平線に現れた
光芒を
時を忘れて
見つめている
少し強くなった
私と
この空のどこから
一緒に
きつと

優秀賞

京都府京都市 三 刀 月 ユ キ

奨励賞

福井県坂井市 平 川 ミ ノ リ

佳作

岐阜県羽島市 岩 田 彰 峰
京都府京都市 三 ツ 谷 直 子
愛知県一宮市 大 江 豊

越前町商工会長賞

今富小学校 三年 小 林 修 也
高崎高等学校 三年 植 原 拓 巳

福井県農業協同組合長賞

朝日小学校 五年 福 岡 莉 菜
朝日中学校 一年 安 井 結 有

越前町漁業協同組合長賞

俳句部門（一般の部）
東京都江戸川区 白 鳥 雅 敏

詩部門（一般の部）

福井県越前町 山 口 明 彦

越前町観光連盟会長賞

俳句部門（一般の部）
福井県敦賀市 倉 谷 重 瑠

詩部門（一般の部）

福井県坂井市 仲 村 多 美 子

問合せ先 生涯学習課 ☎ 34-2000